

老婆心ながら

～校長からの一言～

「過保護」と「過干渉」の違いって知っていますか？

～子育てには、良い意味での妥協が大切！～

少し前の話になりますが、「過保護のカホコ」というドラマがテレビで放映されていましたが、黒木瞳さん演じる母親が娘の行動すべてに口を出す行動は、「過保護」ではなく「過干渉」ではないかという声が視聴者から多く寄せられていたそうです。

そこで、今回は、一見すると同意語のようにも感じられる「過保護」と「過干渉」、この二つの言葉の意味の違いと、子育てにおけるそれらの善悪について触れてみたいと思います。

まず、それぞれの意味についてですが、「過保護」とは、可愛さ余って、また失敗させたくなくて「子どもが望むことを全てやってあげてしまうこと」で、それに対し、「過干渉」とは、子どもが望むか望まないかに関わらず「親が望むことを子どもにやらせる（禁じる）こと」です。

次に、それぞれの善悪について考えてみます。二つの決定的な違いは、「子どもの心が満たされているかどうか」にあります。「過保護」では、親の行為により自分の欲求が充足されることもあって、子どもは親の愛情を感じることができるので、時期がくれば自ら自立していくことが多いようです。それに対して「過干渉」の場合は、自我が芽生える時期になると、親からの制約により自由を奪われている形になるため、ややもすると親に対する憎悪の感情ばかりが高まってしまう可能性があると言われています。以前は、どちらも「子どもの心身の自立を妨げる」とされてきましたが、このように考えると『過保護は、一概に悪いとばかりは言えないが、過干渉は、決して子どものためにならない』と言ったところなのではないのでしょうか。

「過保護のカホコ」は、過干渉の親を風刺した内容のドラマであったようにも思われます。なぜ、このドラマが制作され放映されたのかを考えると、そういう子育てをしている親が実際に存在しているという背景があるのだと思います。きっと、そういう子育てをしている親達には悪気はないでしょう。しかし、周囲から見ると、滑稽にも見えてしまうからドラマになるのでしょうか。

私自身にも我が子（現在、23歳）を育てる中で、自分の価値観を我が子に押し付けようとしてしまった経験が何度もあります。でも、結果的に、子どもの様子を見ている中で、かなりを妥協してきたようにも感じます。そのおかげもあってか、我が子は、高校進学以降、必要以上に親を頼りにするようなこともなく、真っすぐに「我が道」を進み大人になってくれました。今考えると、あの時、本当に妥協して良かったと思っています。